

素材・接着方法・コスト全てにおいて最適を選択

昨今、熱溶着(ヒートシール)を「売り」にするインフレータブルボートが見られます。一部で接着剤使用のボートより優れているように語られていますが、それは大きな誤解です。

そもそもヒートシールは特別な技術ではなく、手間のかからない簡単な施工で優れた特長もあります。ただ、あくまで工法のひとつに過ぎず万能ではありません。繊維の両面がコーティングされたボート布の場合、薄いボート布に圧力をかけ熱溶着するのは難しく空気漏れのリスクがあります。結果、厚手のボート布が使用され重く畳みにくいボートとなります。また現在(海外ブランドの1社を除き)熱溶着しているのはチューブのみで、結局底布やトランサム、部材などは接着剤

を使っているのです。

接着剤については製品により性能はピンキリ。適切なメンテナンスでヒートシールに劣らぬ耐久性を発揮する接着剤もあります。現に当社には20年前のモデルが修理で持ち込まれることもあります。

ジョイクラフトはもちろんヒートシール工法も採用しており、業界レベルを超えた0.6mmクラスまで可能としていますが、要は適材適所。使用環境や素材、コストなどを勘案し、そのモデルに最適な工法を選ぶことが重要なのです。昨今の原材料のコストアップが続く中でも、少しでもコストダウンにつなげ、手に取っていただきやすいボートを作る。そのために日々、邁進しています。

水上の“チャリンコ”であってほしい

2馬力艇人気で拡大したわが国の市場ですが、まだまだインフレータブルボートには多くの魅力と可能性が秘められているとジョイクラフトは考えます。例えば、通常は水に浮かべて使用するボートですが、膨らませて庭に置き、船内に水を溜めるとお子さんが喜ぶプールに。こうすればボートはお父さんだけのものではなくなります。

また、近年気候変動により、各地で深刻な水害が多発していますが、一家に一艇とまでいかずとも、マンションなど集合住宅一棟に一艇ボートがあれば、身体の不自由な方の避難手段などとして有用でしょう。折り畳んで収納できるインフレータブルボートは、いざという時の救命艇に最適です(劣化を防ぐため年に2~3回の充排気が必要)。現に、町内会で避難用にインフレータブルボートを用意した事例も多々あります。

さらに万が一大きな災害に遭い、公民館や体育館など避難所での生活を余儀なくされるような事態では、ボートに付属のエアフロアを持ち込むと家族が安らげるベースとなります。

災害時の話が多くなってしまい恐縮ですが、小さく折り畳んで収納でき、充気することで人当たりが柔らかく、強大な浮力を持つ乗り物となるインフレータブルボートには、様々な場面で活用

できるポテンシャルが備わっているといえるのではないかでしょうか。

ジョイクラフトは、インフレータブルボートが水上のチャリンコ(自転車)のように親しまれ、世の中に広く普及する未来を目指し、これからもその可能性を追求してまいります。



世界のスタンダードになった美しい艤装品類

ジョイクラフトのスピリットが息づくのはパーティ類に至るまで同じ。市場にある既存のものを使用せず、合理性に富んだ美しいオリジナル設計となっています。アルミ製オールは大型ブレードで速く漕げ、オールロック・ストッパーと共に洗練されたデザイン。

またフィッティングロッドホルダーは本来の目的への使いやすさと同時に、クリートとしても使用できるユーティリティアイテムとして便利です。さらにリフティングハンドルは、ただ握りやすいだけでなく、ランチングホイールを使い一人で運搬する際にベストの配置となるよう、システムとし

て考慮されたパーツです。それは細いロープも食い込まないトラブル知らずのアンカーローラーと、ボート本体を守るロープリーダーも同様。

そしてボートの横流れを防止し保針性を高めるダイナキールや、チューブ表面から出っ張らない平面バルブ、船内から安全に開閉して打ち込んだ水を排出できる逆流防止弁付きセルフベラーなど、ユーザーフレンドリーなパーツを導入したのもジョイクラフト。今では、世界が追随し業界の定番となっているアイテムのオリジナルが当社なのです。

多彩で統一されたデザインのパーツ類



アイコンの説明

※各シリーズのスペック表周りに付いているアイコンは、装備を表しています。



Designed To Be Better